

	ゼミナール名	ゼミナール II (経営学)		
	ゼミ担当者名	石川 雅敏 (いしかわ まさはる)		
	科目分類	専門科目群		
	開講年次	3年次	開講期間	通年
	開講時限	水曜日 2 限	単位数	2 単位
	実施方法	☒ 対面のみ ☐ 遠隔のみ ☐ 対面・遠隔併用		

ゼミのテーマ	企業の経営戦略を事例研究する。 同一産業分野の2つ以上の会社の経営を比較し、業績の差の原因を考える。
ゼミの到達目標	この授業の単位を修得した場合、次のような知識・能力を修得できます。 1) 企業が外部環境の変化にどのような戦略で対応しているかが理解できる。
ゼミの概要	研究対象とする企業または産業を1つ選択し、外部環境の変化との関係性に特に注目して調査研究を行う。
授業時間外の学習	1) 経営戦略に関する基礎的知識の学習 2) 企業の経営情報の収集および解析
履修条件	原則としてゼミナール I で経営ゼミナールを履修していること。 経営学基礎論および経営組織論の単位を取得している事が望ましい。
テキスト	特にありません。
参考文献・資料	「イノベーション・マネジメント入門」(第2版) 一橋大学イノベーション研究センター編、 日本経済新聞社 (2017)
成績評価の方法	授業における優れた意見の発出 (20%)、レポート (30%)、定期試験 (50%) *出席回数が規定に満たなかった場合及び授業料その他納入金等の全額を納めていない場合は 試験を受けることができません。
オフィスアワー	毎週火曜日・金曜日 13:00~15:00 *これ以外の時間帯は必ず事前に予約してください。
成績評価基準	秀(100~90点)、優(89~80点)、良(79~70点)、可(69~60点)、不可(59点以下)
学生へのメッセージ	希望者には卒業論文の作成指導をします。

授業計画			
第1回	イントロダクション	第17回	企業調査
第2回	テーマ設定	第18回	企業調査
第3回	テーマ設定	第19回	企業調査
第4回	テーマ設定	第20回	企業調査
第5回	候補企業の概要調査	第21回	企業調査
第6回	候補企業の概要調査	第22回	企業調査
第7回	候補企業の概要調査	第23回	企業調査
第8回	研究企業の選択	第24回	企業調査
第9回	研究企業の選択	第25回	企業調査
第10回	研究企業の選択	第26回	レポート作成
第11回	研究計画策定	第27回	レポート作成
第12回	研究計画策定	第28回	レポート作成
第13回	企業調査	第29回	レポート作成
第14回	企業調査	第30回	レポート作成
第15回	企業調査	第31回	レポート作成
第16回	定期試験	第32回	定期試験

	ゼミナール名	ゼミナールⅡ（行動科学）		
	ゼミ担当者名	市原 光匡		
	科目分類	専門科目群		
	開講年次	3年次	開講期間	通年
	開講時限	水曜日 2 限	単位数	2 単位
	実施方法	☒ 対面のみ ☐ 遠隔のみ ☐ 対面・遠隔併用		

ゼミのテーマ	教育学やその基礎となる行動科学の研究手法に触れ、研究の素地を養うとともに、その手法を用いて課題研究を行う。
ゼミの到達目標	1. 教育学やその基盤としての行動学の研究枠組みを理解し、説明ができる。 2. 個々の能力や適性、興味関心をもとに研究テーマを設定し、それにしたがって研究を行うことができる。
ゼミの概要	前期では、まず社会学に関するテキストを読み、社会学の対象と方法を理解するとともに、行動科学の基礎をふまえる。そのうえで、それぞれの関心をもとに学生自ら今後取り組む研究テーマを検討する。 後期は、前期の学習をふまえ、それぞれ課題を設定し、個人またはグループで課題に取り組む。
授業時間外の学習	現代の社会問題に関心を向け、自分なりの考えを主張できるようにしておきたい（1.5 時間程度）。また復習として、授業で取りあげる研究分野ごとにその研究方法や研究の意義などをふまえておくこと（1.5 時間程度）。
履修条件	「地域フィールドワーク」「教育学入門」のいずれかを修得済みであること、または教職課程の所定の科目を修得し、次年度に教育実習を行う予定であることが望ましい。なお、下記の要件を満たさなかった場合、特別の事情のあるものを除き単位の修得を認定しない。 ・今年度中に「生涯学習」「地域フィールドワーク」「教育学入門」のいずれかを修得すること（または修得済みであること） <u>なお、履修を希望するものは、履修登録に先だって担当教員と面談し、履修の許可を得ること。履修の許可を得ないまま履修登録をしても、単位の修得を認定しない。</u>
テキスト	秋元律郎・岩永雅也・倉沢進〔編著〕『社会学入門』放送大学教育振興会, 2001.
参考文献・資料	必要に応じて適宜指示する。
成績評価の方法	ゼミナール内での発表・報告 40%、平常点 40%、期末試験 20%の割合で評価を行う。 ※出席回数が規定に満たなかった場合及び授業料その他納入金等の全額を納めていない場合は試験を受けることができません。
オフィスアワー	火曜日 9:00～10:30・金曜日 13:00～14:30
成績評価基準	秀(100～90 点)、優(89～80 点)、良(79～70 点)、可(69～60 点)、不可(59 点以下)
学生へのメッセージ	学生の参加によって成り立つ授業である。時間と手間はかかるが、興味関心をもって積極的に参加すれば、他の授業では得られない発見や体験もできる。したがってゼミナールの活動には積極的に参加すること。また各回意見交換の機会を設けるので、ゼミナール内でのコミュニケーションを深め、他者と協働しながら学習をすすめていくこと。 なお、やむをえない事情により欠席・遅刻する際にはその都度連絡すること。

授業計画			
第1回	ガイダンス	第17回	後期ガイダンス・計画実施状況の確認
第2回	文献講読①（社会学とは何か）	第18回	参考文献の報告会①（第1グループ）
第3回	文献講読②（社会学の方法）	第19回	参考文献の報告会②（第2グループ）
第4回	問題意識の明確化	第20回	参考文献の報告会③（第3グループ）
第5回	研究テーマの設定	第21回	文献講読⑪（エスニシティと国家）
第6回	研究テーマの報告・グルーピング	第22回	中間報告会（第1グループ）
第7回	文献講読③（自我とコミュニケーション）	第23回	中間報告会（第2グループ）
第8回	文献講読④（集団と組織）	第24回	中間報告会（第3グループ）
第9回	文献講読⑤（文化と社会化）	第25回	文献講読⑫（大衆社会と政治）
第10回	文献講読⑥（同調と逸脱）	第26回	文献講読⑬（メディアと大衆）
第11回	文献講読⑦（家族と社会）	第27回	文献講読⑭（現代社会と宗教）
第12回	文献講読⑧（教育と市民社会）	第28回	文献講読⑮（現代社会の諸相）
第13回	文献講読⑨（職業と階層）	第29回	最終報告会（第1グループ）
第14回	文献講読⑩（地域社会と生活）	第30回	最終報告会（第2グループ）
第15回	研究計画の策定	第31回	最終報告会（第3グループ）
第16回	定期試験	第32回	定期試験

	ゼミナール名	ゼミナールⅡ（観光学）		
	ゼミ担当者名	井上 寛		
	科 目 分 類	専門科目群		
	開 講 年 次	3年次	開 講 期 間	通年
	開 講 時 限	水曜日2時限	単 位 数	2単位
	実 施 方 法	■対面のみ □遠隔のみ □対面・遠隔併用		

ゼミのテーマ	「観光」を実践的に学ぼう
ゼミの到達目標	実践的に「観光」を学ぶ方法を理解し、全体を俯瞰できるようになる。
ゼミの概要	観光学は、実は面白くて役に立つ学問です。その観光学を実践的に楽しく学ぶことがこのゼミナールの1年間のミッションです。そして、3年生にとって重要なのは、後期に実施される卒業試験に合格すること、そして将来の就職に向けて少しずつ準備をすることです。そこで、ゼミナールⅡ（観光学）では、就職活動を行う際に、私は大学で「観光の〇〇」を学んだということを自信をもって言えるように、各自の興味・関心をもとに、メンバーと話し合ったうえで、フィールドワークを含めた観光学の実践的研究を1年かけて行います。 観光学は実践的な学問ですので、自分から「アクション」を起こすことを重視したいと思います。ゼミ時間外に活動することもあります。積極的に参加する意欲のある学生の参加を期待します。
授業時間外の学習	ゼミ課題に対し主体的かつ真剣に取り組むこと。
履修条件	1. 観光学を学ぶ意欲があること。 2. ゼミ行事(高杉祭、観光行事、球技大会、食事会など)に積極的に参加する意欲があること。 3. 無断欠席やネガティブな言動をしないこと。
テキスト	適宜資料を配布します。(特定のテキストは使用しません)
参考文献・資料	適宜指示します。
成績評価の方法	定期試験(30%)・提出物(30%)・ゼミ活動への参加状況・姿勢(40%)
オフィスアワー	毎週月曜日1時限(9:00～10:30) 毎週金曜日3時限(13:00～14:30)
学生へのメッセージ	ゼミ担当の井上寛は、学生時代より四半世紀、一貫して観光をテーマに学び続けています。実学である「観光」はとにかく「実践」することが重要ですが、そのベースとなる社会科学を深く学ぶことも重要です。みなさんの今後の人生の中で、「私は大学で実践的に観光を学んだ!」と堂々と語れるように、学生時代より観光学を学んできた先輩として、一緒に学び続けていきたいと思っています。その「実践」のためには、観光学ゼミナールでは、課題や研究に関して、自分たちで考え企画し、実践することを重視します。そして、高杉祭をはじめゼミ旅行やコンパなどのゼミ行事も、積極的に参加し一緒に楽しむことのできる学生の履修を希望します。

授業計画			
第1回	前期オリエンテーション	第16回	後期オリエンテーション
第2回	未来の目標を語ろう	第17回	研究課題中間報告Ⅰ
第3回	新しいツーリズムを学ぶ1	第18回	研究課題中間報告Ⅱ
第4回	新しいツーリズムを学ぶ2	第19回	データ集計の方法
第5回	新しいツーリズムを学ぶ3	第20回	ゼミ論の書き方
第6回	研究課題ディスカッション1-1	第21回	観光学を多面的に捉える1
第7回	研究課題ディスカッション1-2	第22回	観光学を多面的に捉える2
第8回	研究課題ディスカッション1-3	第23回	観光学を多面的に捉える3
第9回	研究課題ディスカッション1-4	第24回	観光学を多面的に捉える4
第10回	総合学習1	第25回	観光学を多面的に捉える5
第11回	観光フィールドワークの方法1	第26回	観光学を多面的に捉える6
第12回	観光フィールドワークの方法2	第27回	総合学習2
第13回	観光フィールドワークの方法3	第28回	研究発表Ⅰ
第14回	観光フィールドワークの方法4	第29回	研究発表Ⅱ
第15回	前期の振り返り	第30回	後期の振り返り
		第31回	後期試験

	ゼミナール名	ゼミナールⅡ（社会政策）		
	ゼミ担当者名	木村 澄		
	科 目 分 類	専門科目群		
	開 講 年 次	4年次	開 講 期 間	通年
	開 講 時 限	金曜日 3 限	単 位 数	2 単位
	実 施 方 法	☒ 対面のみ ☐ 遠隔のみ ☐ 対面・遠隔併用		

ゼミのテーマ	「人間の一生をどのように保障するのか」
ゼミの到達目標	日本の「社会保険制度」に関する各種制度を概略的に理解して、みなさんの職業生活と人生において活かせるようにすることを目標とします。
ゼミの概要	日本の社会保障制度について、テーマ別に概観して行きます。毎回の発表はありません。
授業時間外の学習	配付するレジュメのコラムを見れば簡単な予習ができます。そうすることで、次のゼミの内容の理解が進みます。また、簡単な復習をすることで、ゼミ内容の理解を深めることができます。
履修条件	特にありません。
テキスト	ゼミナールの時間にレジュメや資料を配付します。
参考文献・資料	ゼミナール内で指示します。
成績評価の方法	【出席状況（50％）、中間試験（25％）期末試験（25％）】 上記評価項目を基にして総合的に判断します。 ・出席回数が規定に満たない場合及び授業料その他納入金等の全額を納めていない場合は、試験を受けることができません。 ・出席確認時に不在だった場合は原則としてその回は欠席とします。 ・演習中に無許可で退出した場合は欠席とします。 ・授業の理解および予習・復習が充分であるかを確認するため、小テストを行うことがあります。 ・レポート課題を課す場合は、授業内または掲示板（ポータルサイト含む）で指示をします。 ※出席回数が規定に満たなかった場合及び授業料その他納入金等の全額を納めていない場合は試験を受けることができません。
オフィスアワー	毎週月曜日 13：00～14：00・火曜日 13：00～14：00 ※これ以外の時間帯でも可能な限り対応します。
成績評価基準	秀（90～100点）、優（80～89点）、良（70～79点）、可（60～69点）、不可（0～59点）
学生へのメッセージ	皆さんの将来の職業生活や人生をとらして必ず役に立つゼミです。 「わかる・できる」ようになるを大切にしましょう。 できるだけ「楽しく」を目指します。

授業計画			
第1回	前期オリエンテーション	第17回	後期オリエンテーション
第2回	社会政策の理論 (1)	第18回	医療保険制度 (1)
第3回	社会政策の理論 (2)	第19回	医療保険制度 (2)
第4回	社会政策の理論 (3)	第20回	医療保険制度 (3)
第5回	社会政策の理論 (4)	第21回	年金保険制度 (1)
第6回	社会政策の理論 (5)	第22回	年金保険制度 (2)
第7回	社会政策の理論 (6)	第23回	労働者災害補償保険制度 (1)
第8回	社会保障制度の生成	第24回	労働者災害補償保険制度 (2)
第9回	社会保障の役割と方法	第25回	労働者災害補償保険制度 (3)
第10回	イギリスの社会保障の歴史的発展 (1)	第26回	雇用保険制度 (1)
第11回	イギリスの社会保障の歴史的発展 (2)	第27回	雇用保険制度 (2)
第12回	日本の社会保障の歴史的発展 (1)	第28回	介護保険制度 (1)
第13回	日本の社会保障の歴史的発展 (2)	第29回	介護保険制度 (2)
第14回	生活保護法 (1)	第30回	介護保険制度 (3)
第15回	生活保護法 (2)	第31回	まとめ
第16回	中間試験	第32回	期末試験

	ゼミナール名	ゼミナールⅡ（簿記・会計）		
	ゼミ担当者名	國井法夫		
	科目分類	専門科目群		
	開講年次	3年次	開講期間	通年
	開講時限	水曜日2限	単位数	2単位
	実施方法	☒ 対面のみ ☐ 遠隔のみ ☐ 対面・遠隔併用		

ゼミのテーマ	日商簿記3級・日商簿記2級資格・宅建士・管理業務主任者・FP資格等を取得する
ゼミの到達目標	1年間で日商簿記2・3級を全員取得すること。
ゼミの概要	①各学生の目標に沿って各自が勉強する。 ②ゼミ協発表大会のための研究
授業時間外の学習	ゼミとは別に週1回個別に私の研究室で問題演習をやる。
履修条件	資格取得に向けて努力できる学生
テキスト	各自の目標に合わせたテキスト
参考文献・資料	
成績評価の方法	授業態度・検定試験の合否・自分の目標を持っているかどうかを見て評価する。
オフィスアワー	水曜日4時間目・金曜日4時間目
成績評価基準	授業態度40%・検定試験の合否40%・テスト成績20%
学生へのメッセージ	近年、楽な方に楽な方に流れる学生が多い。積極的に目標に向かって努力する人を希望します。

授業計画(簿記資格取得希望者)			
第1回	日商簿記2級 P/L・B/Sの作成・株式の発行 工業簿記 基礎	第17回	日商簿記2級 月次決算 工業簿記 総合原価計算・月末仕掛品
第2回	日商簿記2級 株主資本 工業簿記 材料費の分類・計算	第18回	日商簿記2級 精算表 工業簿記 総合原価計算・月末仕掛品
第3回	日商簿記2級 現金預金・債権債務の処理 工業簿記 材料費の減耗・予定消費単価	第19回	日商簿記2級 帳簿締め切り 工業簿記 総合原価計算・月末仕掛品
第4回	日商簿記2級 有価証券の処理 工業簿記 労務費の分類・処理	第20回	日商簿記2級 財務諸表 工業簿記 工程別総合原価計算
第5回	日商簿記2級 子会社株式・関連会社株式 工業簿記 労務費の予定賃率	第21回	日商簿記2級 本支店会計 工業簿記 組別総合原価計算
第6回	日商簿記2級 商品売買について 工業簿記 経費	第22回	日商簿記2級 合併財務諸表 工業簿記 等級別総合原価計算
第7回	日商簿記2級 有形・無形固定資産について 工業簿記 労務費の分類・処理	第23回	日商簿記2級 税効果会計・課税所得 工業簿記 総合原価計算・仕損と減損
第8回	日商簿記2級 リース取引 工業簿記 個別原価計算・製造直接費・間接費	第24回	日商簿記2級 税効果会計・会計処理 工業簿記 総合原価計算・仕損と減損
第9回	日商簿記2級 リース取引 工業簿記 予定配賦率の処理	第25回	日商簿記2級 税効果会計・会計処理 工業簿記 総合原価計算・行程別追加投入
第10回	日商簿記2級 税金 工業簿記 予定配賦率の処理	第26回	日商簿記2級 連結財務諸表・資本結合 工業簿記 総合原価計算・行程別追加投入
第11回	日商簿記2級 引当金 工業簿記 部門別個別原価計算・間接費・個別費	第27回	日商簿記2級 連結財務諸表・会社間取引 工業簿記 財務諸表の作成・製造原価報告書
第12回	日商簿記2級 外貨建て取引 工業簿記 部門別個別原価計算・間接費・共通費	第28回	日商簿記2級 連結財務諸表・未実現利益の消去 工業簿記 本社工場会計
第13回	日商簿記2級 為替予約 工業簿記 部門別個別原価計算・補助部門費	第29回	日商簿記2級 連結財務諸表・連結精算表 工業簿記 標準原価計算
第14回	日商簿記2級 為替予約 工業簿記 部門別個別原価計算・補助部門費	第30回	日商簿記2級 連結財務諸表・連結精算表 工業簿記 直接原価計算
第15回	日商簿記2級 決算 工業簿記 部門別個別原価計算・予定配賦	第31回	まとめ・面接
第16回	定期試験	第32回	定期試験

	ゼミナール名	ゼミナールⅡ（安全保障論）		
	ゼミ担当者名	佐藤 克枝		
	科 目 分 類	専門科目群		
	開 講 年 次	3年次	開 講 期 間	通年
	開 講 時 限	水曜日 2限	単 位 数	2単位
	実 施 方 法	☒ 対面のみ ☐ 遠隔のみ ☐ 対面・遠隔併用		

ゼミのテーマ	安全保障について学び、問題点となる事項について研究・討議する。
ゼミの到達目標	この授業の単位を修得した場合、次のような知識・能力を習得できます。 1 国家の成立要件（住民・領土・政府・外交能力）を説明できる。 2 領域及び日本の領土問題の概要を説明できる。 3 防衛政策の基本（専守防衛）、日米安全保障体制が説明できる。 4 国家安全保障戦略、事態対処法制、平和安全法制の概要を説明できる。 5 国連の集団安全保障体制と集団的自衛権の差異を理解している。 6 武力攻撃事態への対処のための法律の概要を理解している。 7 国民保護についての国や自治体の取り組みについて説明できる。 8 安全保障に関し、選択したテーマについて自己の意見を述べ、解説することができる。
ゼミの概要	日本の安全保障について 国際環境と国内政治がどのようにかかわってきたのかにも着目しつつ学んでいきます。 世界の各国は独自の安全保障政策や、安全保障組織により、自国の主権と独立を確保しています。現在の国際情勢、とりわけ軍事情勢は厳しい状況にあります。そのような中で、各国はそれぞれの防衛努力により、周辺諸国と連携するとともに、国連の集団的安全保障体制の下で平和と安全を維持しているところです。 前半は安全保障体制や安全保障政策についてゼミナールⅠで研究した事項をもとに解説するとともに、学生が選択したテーマに沿って研究します。後半は、重要問題から関心のあるテーマを1つ選択し、ゼミナールⅢで行うゼミ論文の前提となるゼミレポートを作成し、安全保障についてさらに理解を深めていきます。
授業時間外の学習	・日本の安全保障政策に関するニュースに関心を持つこと。 ・国際的な軍事情勢、国際テロ、日本周辺の情勢に関心を持ち、国連や当事国の対処状況に関心を持つこと。 ・毎回のゼミのはじめに、国際関係や安全保障に関するトピックスを発表できるよう準備すること。 （予習 2時間程度、復習 2時間程度）
履修条件	1 次の①～⑤の条件をすべて満たすこと。 ①学生生活入門Ⅰ・Ⅱ（または総合科目Ⅰ・Ⅱ）の単位を修得済みであること。法律学科の学生はこれらに加えて、法律事例研究Ⅰ・Ⅱの単位も修得済みであること。 ②国際関係論、統治機構、行政学Ⅰ・Ⅱ、公共政策論、地域政策論、国際研究入門、世界政治学Ⅰ、世界政治学Ⅱ、国際法のうちいずれかの単位を修得済みであること。 ③国際関係論特別講義を同時履修すること。 ④体験期間（1回目又は2回目）に出席し、安全保障に関する関心事項についてのペーパーを提出すること（フォーマットは出席時に配布する。）。) ⑤履修登録にあたっては、体験期間中に担当教員と面接の上、履修許可を得ること。 2 安全保障論ゼミナールⅠの単位を修得済みであることが望ましい。 3 ゼミナール内での討議に参加すること。
テキスト	授業中に指示する。

参考文献・資料	防衛白書（令和元年版）、外交青書（令和元年版）、田村重信等『日本の防衛法制』（内外出版）、同『日本の防衛政策』（内外出版）、森本敏『日本の安全保障』（実務教育出版）、武田康裕『安全保障のポイントがよくわかる本』（亜紀書房）、西原正『わかる平和安全法制』（朝蜘蛛新聞社）、武田康裕ほか『新訂第5版 安全保障学入門』（亜紀書房）、渡邊隆『平和のための安全保障論 軍事力の役割と限界を知る』（かもがわ出版）、田村重信・さとう正久編著『教科書 日本の防衛政策』芙蓉書房出版、松本利秋『逆さ地図で解き明かす新世界情勢』（ウェッジ）
成績評価の方法	授業への参加状況（報告・質疑応答など）50%、ゼミレポート50% ※出席回数が規定に満たなかった場合及び授業料その他納入金等の全額を納めていない場合は試験を受けることができません。
オフィスアワー	火曜日14:40～16:10・水曜日14:40～16:10
成績評価基準	秀(100～90点)、優(89～80点)、良(79～70点)、可(69～60点)、不可(59点以下)
学 生 へ の メ ッ セ ー ジ	国際関係や国家としての安全保障のあり方、国民保護等に興味のある学生の積極的な参加を期待しています。 早期に研究発表・レポート作成に入ることができるようにするため、安全保障論の体系的な学習と平行して、毎回安全保障に関するトピックについて討議します。後期には、実際に安全保障に携わる防衛省及び国民保護計画策定の中心となる自治体の関係者をゲストスピーカーとして招聘して特別講義をして頂き、安全保障について、さらに理解を深めてもらう予定です。

授業計画			
第1回	ガイダンス 安全保障のまとめ（ゼミナールⅠのふりかえり）	第17回	レポート作成準備 テーマの確認・研究の方向性
第2回	国家・領域の問題とは	第18回	文献検索・中間指導（グループ1）
第3回	我が国の領土問題	第19回	文献検索・中間指導（グループ2）
第4回	防衛政策とは	第20回	文献検索・中間指導（グループ3）
第5回	我が国の防衛政策	第21回	中間報告（グループ1）
第6回	防衛と治安維持	第22回	中間報告（グループ2）
第7回	広義の安全保障①	第23回	中間報告（グループ3）
第8回	広義の安全保障②	第24回	個別指導①
第9回	安全保障と自治体の役割	第25回	個別指導②
第10回	武力攻撃事態とその対処	第26回	学科発表会に向けてのプレゼン準備①
第11回	国民保護法	第27回	学科発表会に向けてのプレゼン準備②
第12回	国際連合の動き	第28回	学科発表会に向けてのプレゼン準備③
第13回	紛争の平和的解決手段	第29回	特別講義①（ゲストスピーカー）
第14回	国際平和協力活動①	第30回	特別講義②（ゲストスピーカー）
第15回	国際平和協力活動②	第31回	全体のまとめ①
第16回	前期のまとめ	第32回	全体のまとめ②

	ゼミナール名	ゼミナールⅡ（民法）		
	ゼミ担当者名	高橋佑輔		
	科 目 分 類	専門科目群		
	開 講 年 次	3年次	開 講 期 間	通年
	開 講 時 限	木曜日 2 限	単 位 数	2 単位
	実 施 方 法	☒ 対面のみ ☐ 遠隔のみ ☐ 対面・遠隔併用		

ゼミのテーマ	民法の基礎知識を修得するとともに、具体的な問題の解決策を考える能力を育む。
ゼミの到達目標	民法の基礎知識を修得し、問題を検討し解決するための方策を考えることができる。 公務員試験等で問われる民法の知識を確実に身に付ける。
ゼミの概要	判例等の事例を題材として、報告担当者の発表をベースに事例研究を行い、また、関連する法分野の知識の確認を行う。報告担当者以外の参加者にも発言を求め（指名する）、担当教員との対話方式でゼミナールを進行する。 ゼミナールⅡ（3年次）は、年度末までに履修者全員が公務員試験（国家一般職、地方上級）で求められる程度の民法知識を習得し、単独で民法に関する研究・報告を行うことができることを目標とする。 <u>本ゼミナールでは、各回のゼミナール冒頭にミニテストを実施する他、定期的に学習到達度確認テストを実施します。</u> <u>履修人数により異なりますが、履修者全員が少なくとも年2回以上（通常4回程度）ゼミナール内で発表を担当することになります。また、原則として発表準備はゼミナール時間外に行ってもらいます（発表内容等に関する教員への相談は歓迎します）。</u>
授業時間外の学習	ゼミナールで扱った範囲について、問題演習等を通じて復習すること（1．5時間）。報告担当者は、報告において引用する資料等も確認して報告準備を行うこと。
履修条件	民法総則、物権法履修程度の民法知識があること（実際に履修しているかは問わない）。債権総論、債権各論、親族・相続の各科目を卒業までに履修すること。
テキスト	履修者と相談して指定する。
参考文献・資料	適宜指示する。
成績評価の方法	ゼミナール内での報告（75%）と試験結果（25%）に出席状況、学習到達度確認テスト結果等を加味して評価する。 ※出席回数が規定に満たなかった場合及び授業料その他納入金等の全額を納めていない場合は試験を受けることができません。
オフィスアワー	月曜日13：00～14：30・木曜日14：40～16：10
成績評価基準	秀(100～90点)、優(89～80点)、良(79～70点)、可(69～60点)、不可(59点以下)
学生へのメッセージ	民法を学ぶ意欲のある学生の参加を歓迎します。参加希望者は毎回六法、民法のテキストを手元に準備することが必須です。 <u>毎回の出席は当然ですので、理由なく欠席した場合にはレポート等の提出を求めます。</u>

授業計画			
第1回	ガイダンス	第17回	学習状況の確認・事例検討
第2回	事例検討	第18回	事例検討
第3回	事例検討	第19回	事例検討
第4回	発表準備・調査（図書館での判例DB検索など）	第20回	学習到達度確認テスト⑤ 発表準備・調査・面談
第5回	学習到達度確認テスト① 発表準備・調査・面談（発表準備状況確認）	第21回	発表準備・調査・面談
第6回	事例検討	第22回	事例検討
第7回	発表・事例検討	第23回	発表・事例検討
第8回	発表・事例検討	第24回	学習到達度確認テスト⑥ 発表・事例検討
第9回	学習到達度確認テスト② 発表・事例検討	第25回	発表・事例検討
第10回	発表・事例検討	第26回	発表・事例検討
第11回	発表・事例検討	第27回	発表・事例検討
第12回	発表・事例検討	第28回	学習到達度確認テスト⑦ 発表・事例検討
第13回	学習到達度確認テスト③ 発表・事例検討	第29回	発表・事例検討
第14回	事例検討	第30回	事例検討
第15回	前期のまとめ	第31回	後期のまとめ
第16回	定期試験	第32回	定期試験

	ゼミナール名	ゼミナールⅡ（社会心理学）		
	ゼミ担当者名	瀧澤 純（たきざわ じゅん）		
	科 目 分 類	専門科目群		
	開 講 年 次	3年次	開 講 期 間	通年
	開 講 時 限	水曜日 2 限	単 位 数	2 単位
	実 施 方 法	☒ 対面のみ ☐ 遠隔のみ ☐ 対面・遠隔併用		

ゼミのテーマ	社会心理学に関する検証を行う。
ゼミの到達目標	3年生のゼミでは自己や他者に関する研究案を考え、研究を実施できるようになることを目標とする。社会・人間・動物について温かく想いやる視点と、冷静に分析する視点を両立させてほしい。
ゼミの概要	心理学の視点や方法を用いて検証し、発信するゼミである。ゼミでは「簡単に調べただけでは答えが出せない問題」に取り組む。ゼミでの活動により、所属する学科の学びにも、試験勉強にも、就職活動にも、公務員試験にも、その後の人生にも活かすことを目指す。 前期は3年生研究（実験や調査）を計画・実施し、データの分析を行う。後期は、2000字以上の論文作成、発表を行う。さらに、卒業研究の前段階として、心理学の論文の輪読を行う。
授業時間外の学習	ゼミの時間外で、グループでの話し合い、資料の検索、実験の考案・調査用紙の作成、実験や調査への協力の呼び掛け、データ入力、データ分析、レポートや論文作成、発表用スライドの作成などに取り組む必要がある（週 2.0 時間程度）。 さらに、毎週のゼミ前には指定された資料を読み（週 1.0 時間程度）、ゼミ後には復習を行うことを求める（週 1.0 時間程度）。
履修条件	前年度に、瀧澤が担当したゼミの単位を取得していることが必要である。そうでない場合は、以下の①と②の両方を満たさなければ、このゼミを履修できない。 ①ゼミを履修する時点で「心と行動Ⅰ、心と行動Ⅱ、統計学、人間行動学、犯罪心理学、社会調査の仕方、スポーツ心理学、学生生活入門Ⅱの8科目」から3科目以上の単位が取得済みであること ②ゼミ第3回開始までに教員との面談に合格し、受講の許可を得ること
テキスト	柏木吉基『「それ、根拠あるの？」と言わせないデータ・統計分析ができる本』（日本実業出版社、2013年） このほか、学生自身が、取り組むテーマに応じて資料を探す必要がある。
参考文献・資料	Nolen-Hoeksema ほか（著）『ヒルガードの心理学 第16版』（ブレーン出版、2015年）
成績評価の方法	行事への参加と取り組み姿勢 20%、提出物と発表 60%、定期試験 20%の割合で評価する。 ※出席回数が規定に満たなかった場合及び授業料その他納入金等の全額を納めていない場合は試験を受けることができません。
オフィスアワー	月曜日の2時限（10:40 から 12:10）、金曜日の2時限（10:40 から 12:10）とする。
成績評価基準	100～90点を秀、89～80点を優、79～70点を良、69～60点を可、59点以下を不可とする。
学生へのメッセージ	積極的な参加が求められるゼミです。学年合同の懇親会、球技大会、大学祭、ゼミ旅行、各学年の発表会など、学年やゼミを越えて人と関わる中で、人を想うことができる人になってください。心理学による検証を行い、検証結果を発信する中で、人への思慮深さを身につけてください。

授業計画			
第1回	ガイダンス：教員の研究紹介①	第17回	レポートの作成①：問題と目的、方法
第2回	心理学の概要：よい研究とは、教員の研究紹介②	第18回	レポートの作成②：結果、考察
第3回	実験や調査の基本：3年生研究（3年研）について、連絡グループ作成	第19回	レポートの作成③：追加の資料の検索
第4回	3年研の計画①：テーマの設定	第20回	レポートの作成④：校正
第5回	3年研の計画②：先行研究の検討	第21回	発表の準備①：研究発表のマナー
第6回	3年研の計画③：仮説の設定、仮説を補助する変数	第22回	発表の準備②：スライド発表の技術
第7回	研究案の投票、チーム作り	第23回	発表の準備③：リハーサル
第8回	3年研の準備①：場面の設定	第24回	3年生研究発表会
第9回	3年研の準備②：道具の作成、場所の確保	第25回	3年生研究発表会（予備日）
第10回	3年研の準備③：担当役割、段取り	第26回	論文の探し方：よい論文、悪い論文
第11回	3年研の実施①：前半組	第27回	卒業研究に向けたテーマ相談
第12回	3年研の実施②：後半組	第28回	卒業研究に向けた輪読①
第13回	データ分析の準備①： χ^2 検定、t検定	第29回	卒業研究に向けた輪読②
第14回	データ分析の準備②：相関、回帰分析	第30回	卒業研究に向けた輪読③
第15回	データ入力、データ分析	第31回	卒業研究発表会への参加
第16回	定期試験	第32回	定期試験

	ゼミナール名	ゼミナールⅡ（情報システム管理論）		
	ゼミ担当者名	瀧森 威		
	科 目 分 類	専門科目群		
	開 講 年 次	3年次	開 講 期 間	通年
	開 講 時 限	水曜日 2 限	単 位 数	2 単位
	実 施 方 法	☒ 対面のみ ☐ 遠隔のみ ☐ 対面・遠隔併用		

ゼミのテーマ	最新の情報・IT技術を通して、その分野の基本的な資質を磨きます。
ゼミの到達目標	このゼミの単位を修得した場合、次のような知識・能力を修得できます。 1. 社会人としての自覚・良識・思考を身に付ける。 2. グループによる調査・研究・発表を通して、チームワークやコミュニケーション能力、プレゼンテーション能力が身に付く。 3. 情報リテラシー能力、情報処理技術の基本が身に付く。
ゼミの概要	情報技術・IT関連資格の取得に向けた知識と実技の習得と実践を行います。 情報やITの技術動向調査研究を行います。 学生が社会人になるための基本的な資質を磨きます。 最新言語 Python についての実習も検討中で、ゼミの中で説明します。
授業時間外の学習	情報やITの技術動向に対して絶えず関心を持って調査研究する。 多くのソフトウェアを使いこなす。
履修条件	コンピュータ入門やコンピュータ利用技術Ⅰ、情報システム管理論ゼミナールⅠを修得している学生が望ましい。適宜資料を配布しますが、欠席した学生は配布資料の有無を確認し、研究室まで取りに来てください。
テキスト	情報やIT関連に関するプリント、資格取得のためのプリント
参考文献・資料	講義中に適宜紹介します。ITパスポート関連、日商PC検定関連、MS検定関連資料。
成績評価の方法	講義中に実施する実践的課題 30%（知識問題・実技問題・レポート）、グループ調査研究 30%、試験 40%により判断します。 ・出席回数が規定に満たない場合及び授業料その他納入金等の全額を納めていない場合は、試験を受けることができません。 ・出席確認時不在だった場合は原則としてその回は欠席とします。 ・授業中に無許可で退出した場合は欠席とします。 ・課題は必ず提出することが前提で、授業内又は掲示板で指示します。
オフィスアワー	毎週 金曜日 10:40～12:10 これ以外の時間帯は必ず事前に予約してください。
成績評価基準	平成 28 年度（2016）以降入学した学生 秀（100～90 点）、優（89～80 点）、良（79～70 点）、可（69～60 点）、不可（59 点以下） 平成 27 年度（2015）以前入学した学生 優（100～80 点）、良（79～70 点）、可（69～60 点）、不可（59 点以下）
学生へのメッセージ	情報（プログラム開発等）やIT関連の仕事に就きたい人にはお勧めです。 大きな仕事をやりとげた人達からの教え等、学生たちがこれからの進路や人生をどのように歩んでいくべきか、今一度学生の皆さんと一緒に考えましょう。また、情報やIT関連資格取得を目標にしましょう。

授業計画			
第1回	ゼミナールの概論	第17回	情報・IT技術班、秋田県の諸問題班調査研究
第2回	情報やIT関連の資格取得について	第18回	情報・IT技術班、秋田県の諸問題班調査研究
第3回	情報処理技術の応用的知識の習得① (コンピュータの構成要素) 応用的IT活用実践能力の習得(実技問題1)	第19回	情報・IT技術班、秋田県の諸問題班調査研究
第4回	情報処理技術の応用的知識の習得② (プロセッサとメモリ、記憶装置等) 応用的IT活用実践能力の習得(実技問題2)	第20回	情報・IT技術班、秋田県の諸問題班 中間発表準備
第5回	情報処理技術の応用的知識の習得③ (入出力インタフェース、知識問題確認) 応用的IT活用実践能力の習得(実技問題3)	第21回	情報・IT技術班、秋田県の諸問題班 中間発表準備
第6回	情報処理技術の応用的知識の習得④ (ソフトウェアの種類と構成、プログラミング言語) 応用的IT活用実践能力の習得(実技問題4)	第22回	ゼミ内各研究中間発表会
第7回	情報処理技術の応用的知識の習得⑤ (コンピュータの原理、基数変換、論理演算) 応用的IT活用実践能力の習得(実技問題5)	第23回	情報・IT技術班、秋田県の諸問題班 改善・改良
第8回	情報処理技術の応用的知識の習得⑥ (統計の基礎、アルゴリズムとデータ構造) 応用的IT活用実践能力の習得(実技問題6)	第24回	情報・IT技術班、秋田県の諸問題班 改善・改良
第9回	情報処理技術の応用的知識の習得⑦ (代表的な整列アルゴリズム、知識問題確認) 応用的IT活用実践能力の習得(実技問題7)	第25回	情報・IT技術班、秋田県の諸問題班 本番発表準備
第10回	情報処理技術の応用的知識の習得⑧ (マルチメディア、知識問題確認) 応用的IT活用実践能力の習得(実技問題8)	第26回	ゼミ内各研究発表会
第11回	情報処理技術の応用的知識の習得⑨ (データベース、データベース知識問題確認) 応用的IT活用実践能力の習得(実技問題9)	第27回	情報・IT技術班、秋田県の諸問題班 論文作成
第12回	情報処理技術の応用的知識の習得⑩ (コンピュータシステムの評価指標) 応用的IT活用実践能力の習得(実技問題10)	第28回	情報・IT技術班、秋田県の諸問題班 論文作成
第13回	情報処理技術の応用的知識の習得⑪ (ネットワークとプロトコル) 応用的IT活用実践能力の習得(実技問題11)	第29回	情報・IT技術班、秋田県の諸問題班 論文作成
第14回	調査研究のための概要 (グループ分けとテーマ説明)	第30回	情報・IT技術班、秋田県の諸問題班 論文作成
第15回	最新情報及びIT技術の調査研究班決め 秋田県の諸問題班決め	第31回	1年間の総括
第16回	前期定期試験	第32回	後期定期試験

	ゼミナール名	ゼミナールⅡ（行政学・政治学（地方自治含む））		
	ゼミ担当者名	寺迫 剛		
	科目分類	専門科目群		
	開講年次	3年次	開講期間	通年
	開講時限	水曜日2限	単位数	2単位
	実施方法	☒ 対面のみ ☐ 遠隔のみ ☐ 対面・遠隔併用		

ゼミのテーマ	そもそも行政や政治とは「社会を共にし、運命を分かち合っている人々が互いに力を合わせて共通のニーズを充足し、人間としてのよりよき存在のために必要な諸条件を整えていくことを目指す集合的な営為」（片岡寛光(1990)『国民と行政』早稻田大学出版部）であることを、本ゼミナールを通じて認識し、行政(学)・政治(学)についての理解を深めること。 ゼミナールⅠ,Ⅱ,Ⅲを通じて、段階的にゼミ論文を執筆、完成させましょう。
ゼミの到達目標	①行政(学)・政治(学)、地方自治(論)についての一般的知識を習得し、 ②ゼミ参加者各自が、各々のテーマを探究し、 ③他国の事例あるいは同国の他のテーマとの比較の視点を獲得することにより、各自がゼミ論文の執筆に取り組むこと。
ゼミの概要	➤ テキストあるいはレジュメを輪読する形式とします。また、各自のゼミ論文に向けたテーマ設定や進捗について報告し、話し合う場としましょう。 ➤ 行政学および政治学の基礎知識を効率よく習得するため、いわゆる公務員試験対策教材を活用する場合があります。 ➤ ノースアジア大学では卒業試験に合格しなければ卒業できません。本ゼミは卒業試験科目に合致しませんが、ゼミ参加者で協力して卒業試験対策に取り組み、準備を進めましょう。
授業時間外の学習	➤ 文部科学省の大学設置基準第21条に基づき、事前学習（1.5時間）および事後学習（1.5時間）とします。 ➤ 世間、社会、世界に関心をもって過ごすことで、事前・事後学習時間に充当すること。
履修条件	➤ ゼミナールⅠを履修していない場合には、第1回あるいは第2回の（お試し）ゼミに出席すること。出席できない場合には、必ず、履修前に国家試験等センターへ個人面談に来てください。 ➤ 「行政学Ⅰ・Ⅱ」、「公共政策論」、「都市政策論」を、できるだけ履修しましょう。
テキスト	➤ ゼミ参加メンバーと調整して決定
参考文献・資料	『行政学』西岡晋・廣川嘉裕編（文眞堂、2021） 『テキストブック地方自治の論点』宇野二郎・長野基・山崎幹根（ミネルヴァ書房、2022） 『政府間関係の多国間比較』秋月謙吾・城戸英樹編（慈学社、2021） 『比較行政学入門』ザビーネ・クールマン、ヘルムート・ヴォルマン（成文堂、2021） 『Verwaltung und Verwaltungswissenschaft in Deutschland』Jörg Bogumil und Werner Jann（Springer VS, 2020） 『行政学［新版］』真淵勝（有斐閣、2020） 『行政学の基礎』風間規男編著、岡本三彦、中沼丈晃、上崎哉（一藝社、2019） 『日本の地方政府』曾我謙悟（中公新書、2019） 『行政学講義』金井利之（ちくま新書、2018） 『行政学』原田久（法律文化社、2016） 『行政学［第2版］』外山公美編（弘文堂、2016） 『はじめての行政学』伊藤正次、出雲明子、手塚洋輔（有斐閣ストゥディア、2016） 『行政学』曾我謙悟（有斐閣アルマ、2013） 『雇用連帯社会』井手英策編（岩波書店、2011） 『コレク行政学』縣公一郎・藤井浩司編（成文堂、2007）

	『都市の再生を考える〈第1巻〉都市とは何か』植田和弘・西村幸夫など編（岩波書店、2005） 『行政学〔新版〕』西尾勝（有斐閣、2001） 『国民と行政』片岡寛光（早稲田大学出版部、1990）
成績評価の方法	➤ ゼミでの積極的参加・貢献の度合い（65%） ➤ レポートあるいは試験（35%） ※ノースアジア大学の規定により、出席回数が規定に満たなかった場合及び授業料その他納入金等の全額を納めていない場合は試験を受けることができません。
オフィスアワー	水曜日 4 限および木曜日 1 限
成績評価基準	秀（100～90 点）、優（89～80 点）、良（79～70 点）、可（69～60 点）、不可（59 点以下）
学 生 へ の メ ッ セ ー ジ	➤ 人は「一人じゃ生きられない」からこそお互いに協働し（「都市政策論」参照）、 ➤ 公共政策の射程は「当たり前」でも「他人事」でもなく（「公共政策論」参照）、 ➤ 「誰も見捨てないこと」こそ本来の行政・政治である（「行政学Ⅰ・Ⅱ」参照）、 という認識を涵養し共有できる場にしましょう。

授業計画			
第1回	オリエンテーション	第17回	インターミッション
第2回	行政学・政治学の探求① 秋田市「まちづくり」の岐路①	第18回	卒業試験および公務員・資格試験等への準備①
第3回	行政学・政治学の探求② 秋田市「まちづくり」の岐路②	第19回	卒業試験および公務員・資格試験等への準備②
第4回	行政学・政治学の探求③ 秋田市「まちづくり」の岐路③	第20回	卒業試験および公務員・資格試験等への準備③
第5回	行政学・政治学の探求④ 政党・議会政治の各国比較①	第21回	卒業試験および公務員・資格試験等への準備④
第6回	行政学・政治学の探求⑤ 政党・議会政治の各国比較②	第22回	ゼミ論・進路選択等現況のプレゼンテーション①
第7回	行政学・政治学の探求⑥ 政党・議会政治の各国比較③	第23回	ゼミ論・進路選択等現況のプレゼンテーション②
第8回	行政学・政治学の探求⑦ 官僚制論・公務員制度論①	第24回	ゼミ論・進路選択等現況のプレゼンテーション③
第9回	行政学・政治学の探求⑧ 官僚制論・公務員制度論②	第25回	ゼミ論・進路選択等現況のプレゼンテーション④
第10回	行政学・政治学の探求⑨ 官僚制論・公務員制度論③	第26回	各ゼミ論等の枠組みの構築と討議①
第11回	ゼミ参加者の各テーマのプレゼンテーション①	第27回	各ゼミ論等の枠組みの構築と討議②
第12回	ゼミ参加者の各テーマのプレゼンテーション②	第28回	各ゼミ論等の枠組みの構築と討議
第13回	ゼミ参加者の各テーマのプレゼンテーション③	第29回	各ゼミ論等の枠組みの構築と討議④
第14回	ゼミ参加者の各テーマのプレゼンテーション④	第30回	ゼミナールⅡのまとめとⅢへの展望①
第15回	ゼミ参加者の各テーマのプレゼンテーション⑤	第31回	ゼミナールⅡのまとめとⅢへの展望①
第16回	定期試験あるいはゼミ論等テーマ報告の講評	第32回	定期試験あるいはゼミ論等テーマ報告の講評

	ゼミナール名	ゼミナールⅡ（政治学・行政学）		
	ゼミ担当者名	中村 逸春		
	科目分類	専門科目群		
	開講年次	2年次	開講期間	通年
	開講時限	水曜日 1 限	単位数	2 単位
	実施方法	☒ 対面のみ ☐ 遠隔のみ ☐ 対面・遠隔併用		

ゼミのテーマ	社会とは何か？ 社会と個人との関係はどうあるべきか？ 私のゼミナールでは、こうした問いについて、政治学や行政学の文献を読み議論することを通じて、一緒に考えていければと思っています。
ゼミの到達目標	政治学の文献を読解する力と、他のゼミ生と議論する力を習得すること。 社会科学的な思考を身につけること。ゼミ論文を執筆するための能力を涵養すること。
ゼミの概要	①前期から後期の始めにかけては、政治学・行政学について幅広く学ぶため、次の二冊をテキストとして読み進める予定です（参加者の意見も聞く予定）。 (a) 松元雅和『平和主義とは何か：政治哲学で考える戦争と平和』。 (b) 小松理度『新復興論』（または斎藤公平編『未来への大分岐』か、同著者の環境・気候変動問題やSDGsを扱った他の著書）。→東日本大震災と地域作りに焦点をあてた書籍です。毎回、指定箇所を事前に読んできて、当日は全員で議論するという形でゼミを進めます。テキストは専門書ではなく一般読者向けの新書などですので、比較的読みやすいと思います。 ②後期の途中からは、ゼミ論文の作成に取り組んでもらう予定です。
授業時間外の学習	テキストを読んで分からないことがあれば、事前に図書館やウェブ情報を通じて調べておくこと（2.0時間程度）。新聞などに日々目を通しておくこと（2.0時間程度）。
履修条件	特にありません。ただし、ガイダンスに出席できない（できなかった）場合は、第2回目の授業日の前までに、7階の研究室に一度お越しください。
テキスト	松元雅和『平和主義とは何か：政治哲学で考える戦争と平和』中公新書（820円）。 小松理度『新復興論』ゲンロン叢書、2018年。
参考文献・資料	斎藤公平編『未来への大分岐：資本主義の終わりか、人間の終焉か』集英社新書（980円）。 山本昭宏『戦後民主主義：現代日本を創った思想と文化』中公新書（920円）。
成績評価の方法	発言や報告などの取り組み姿勢（60%）、レポートまたは試験（40%）によって評価する。 ※出席回数が規定に満たなかった場合及び授業料その他納入金等の全額を納めていない場合は試験を受けることができません。
オフィスアワー	木曜・金曜 14:00～15:30
成績評価基準	秀(100～90点)、優(89～80点)、良(79～70点)、可(69～60点)、不可(59点以下)
学生へのメッセージ	(1) ゼミの内容に関心を持たれた方は、気軽に7階の研究室にお越しください。 (2) 政治に強い関心がなくても、特に問題はありません。政治とは何か、学問とは何なのか、一緒にゼミで考えましょう！ (3) 大人数にはならないと思いますので、5～6名ほどの少人数が好みの人にはお勧めです。 (4) 公務員試験の勉強についてある程度は助言ができると思います。 (5) ゼミナール発表会は法律学科のものに参加しますので、注意してください。

授業計画			
第1回	第1回ガイダンス	第17回	後期のゼミ活動についての説明、個別面談
第2回	第2回ガイダンス	第18回	食と復興① ーいわきの現場から（『新復興論』） ＊または環境・気候変動問題と SDGs に関する書籍
第3回	文献検索の方法、ゼミ内の役割分担	第19回	食と復興② ーうみラボの実践（『新復興論』） ＊または環境・気候変動問題と SDGs に関する書籍
第4回	愛する人が襲われたら ー平和主義の輪郭①（『平和主義とは何か』）	第20回	食と復興③ ーバックヤードとしてのいわき（『新復興論』） ＊または環境・気候変動問題と SDGs に関する書籍
第5回	愛する人が襲われたら ー平和主義の輪郭②（『平和主義とは何か』）	第21回	原発と復興① ー復興とバブル（『新復興論』） ＊または環境・気候変動問題と SDGs に関する書籍
第6回	正しい戦争はありうるか ー正戦論との対話①（『平和主義とは何か』）	第22回	原発と復興② ーロコックと原発（『新復興論』） ＊または環境・気候変動問題と SDGs に関する書籍
第7回	正しい戦争はありうるか ー正戦論との対話②（『平和主義とは何か』）	第23回	ゼミ論文についての説明、個別面談
第8回	個別面談	第24回	原発と復興③ ー原発をどうするのか（『新復興論』） ＊または環境・気候変動問題と SDGs に関する書籍
第9回	平和主義は非現実主義か ー現実主義との対話①（『平和主義とは何か』）	第25回	文化と復興① ーいわきの力（『新復興論』） ＊または環境・気候変動問題と SDGs に関する書籍
第10回	平和主義は非現実主義か ー現実主義との対話②（『平和主義とは何か』）	第26回	映画鑑賞など
第11回	映画鑑賞など	第27回	文化と復興② ー被災地と地域アート（『新復興論』） ＊または環境・気候変動問題と SDGs に関する書籍
第12回	救命の武力行使は正当か① ー人道介入主義との対話（『平和主義とは何か』）	第28回	文化と復興③ ー誤配なき復興（『新復興論』） ＊または環境・気候変動問題と SDGs に関する書籍
第13回	救命の武力行使は正当か② ー人道介入主義との対話（『平和主義とは何か』）	第29回	ゼミ論文作成状況のフォロー、個別指導
第14回	結論と展望 （『平和主義とは何か』）	第30回	ゼミ論文の発表
第15回	レポートに関する説明、個別面談	第31回	後期の総括、ゼミ論文の体裁、個別面談
第16回	レポート	第32回	レポート（または定期試験）

	ゼミナール名	ゼミナールⅡ（人間科学）		
	ゼミ担当者名	西巻 丈児（にしまき じょうじ）		
	科 目 分 類	専門科目群		
	開 講 年 次	3年次	開 講 期 間	通年
	開 講 時 限	水曜日 2 限	単 位 数	2 単位
	実 施 方 法	☒ 対面のみ ☐ 遠隔のみ ☐ 対面・遠隔併用		

ゼミのテーマ	人間とふるまい ―経済活動をする「人間」とは―
ゼミの到達目標	・ 社会生活の中で、どのようにふるまえばよいのか、という行為の諸問題を、自分自身の身近な問題として考える習慣を身につけることができる。 ・ 人間のふるまい／行為についての基礎的内容、基本的概念を他者に説明することができ、あわせて、その学説や思想を自己の人格形成に努めるための必要な道具立てとすることができる。
ゼミの概要	人間のふるまい、あるいは人間の行為に関わる諸問題について考えていく。一例としては、人間のふるまいを「効用」という視点からとらえ、経済学に結び付けて考えた理論もあるように、われわれの経済活動の源には、人間の「ふるまい」がある。人間には、「真・善・美」という3つのキーワードを用いて、「何を知ることができるのか」、「何をなすべきなのか」、そして「どう感ずるのか」を問うてきた歴史がある。このゼミナールⅡでは、その中でも、「何をなすべきなのか」という人間のふるまい、あるいは自己の在り方・生き方について、西洋の先哲の基本的な考え方の理解を手掛かりとして、考えていく。
授業時間外の学習	予習：（1.5 時間程度） 授業の内容は連関しているので、毎回、配布する資料を復習しておき、前の回までの内容を自分なりに考えて授業に臨むようにすること。また、講読の授業の際には、該当の頁をあらかじめ読んでくること。また、研究発表に向けては、かなりの準備時間が必要となる。 復習：（1.5 時間程度） 毎回配布する資料に参考文献を記載するので、復習するにはそれも参考にすること。
履修条件	・ 第1回目か第2回目のゼミナールに必ず出席して、「人間のふるまい／行為」に関する自身の問題意識を書くことが第一条件である。そして、履修登録に先立ち、本ゼミナールに参加希望する旨を本教員に直接表明し、面談を受けることが、第二条件である。 ・ 本ゼミナールでは、研究発表大会などに出場することがゼミナールに参加する絶対の条件となっている。 ・ 講読の授業の際には、該当の頁をあらかじめ読んでくることが全員に義務づけられる。 ・ 本年度、「人間関係論」を履修することが義務づけられる。
テキスト	特に指定はしない。授業中に毎回配布するプリントが教科書の代わりとなる。また、パワーポイント、映像資料や文字資料も適宜使用する。
参考文献・資料	マイケル・サンデル『これからの「正義」の話をしよう』ハヤカワ・ノンフィクション文庫 カント『道徳形而上学の基礎づけ』光文社古典新訳文庫
成績評価の方法	3分の2以上の出席を前提に、授業時に毎回提出してもらうリアクションペーパーによる理解度（20%）、発表時の内容（30%）と、定期試験（50%）を総合して、最終的な評価を下す。また、欠席、遅刻、私語、居眠り、無断退出等については減点の対象とする。 ※出席回数が規定に満たなかった場合及び授業料その他納入金等の全額を納めていない場合は、試験を受けることができません。
オフィスアワー	火曜日 10:40～12:10 木曜日 10:40～12:10 事前連絡があれば、上記時間の他も可能性あり。
成績評価基準	秀(100～90点)、優(89～80点)、良(79～70点)、可(69～60点)、不可(59点以下)

学 生 へ の メ ッ セ ー ジ	日々の暮らしの中に、自分自身の生き方を考える様々なヒントが隠れている。解決することはできないかもしれないが、考え続けるということはとても大切なことである。一緒に人間の問題について考えていこう。
----------------------	--

授業計画			
第1回	ガイダンスα： ゼミ参加者の自己紹介とゼミの進め方	第17回	ガイダンス： 前期の復習と後期の授業展開
第2回	ガイダンスβ： ゼミ参加者の自己紹介とゼミの進め方	第18回	人間のふるまいへの問いの次元(3)： 自由の諸相
第3回	人間のふるまいへの問いの次元(1)： 功利主義と経済活動	第19回	近世ヨーロッパにおける人間への問い(1)： デカルトの人間観
第4回	人間のふるまいへの問いの次元(2)： 行為の問題がなぜ生ずるのか	第20回	近世ヨーロッパにおける人間への問い(2)： カントの意志の自由について
第5回	よく生きるとは：ソクラテスの人間観	第21回	レポート完成計画Ⅱ： 研究テーマとその概略の発表会①
第6回	善のアイデアとは：プラトンの人間観	第22回	レポート完成計画Ⅱ： 研究テーマとその概略の発表会②
第7回	幸福と中庸の徳とは：アリストテレスの人間観	第23回	人間が考える「幸福観」とは カントの著作を読む(1)
第8回	人間のふるまいを考える サンデルの著作を読む(1)	第24回	人間が考える「幸福観」とは カントの著作を読む(2)
第9回	人間のふるまいを考える サンデルの著作を読む(2)	第25回	人間が考える「幸福観」とは カントの著作を読む(3)
第10回	人間のふるまいを考える サンデルの著作を読む(3)	第26回	人間が考える「幸福観」とは カントの著作を読む(4)
第11回	人間のふるまいを考える サンデルの著作を読む(4)	第27回	功利主義の思想について(1)： 「最大多数の最大幸福」という考え方について
第12回	人間のふるまいを考える サンデルの著作を読む(5)	第28回	功利主義の思想について(2)： 社会的自由について
第13回	人間の幸福観に関するディスカッション	第29回	レポート完成計画Ⅲ 研究発表会①
第14回	レポート完成計画Ⅰ：(レポート執筆の準備) 文献の探し方、文献注記の書き方など	第30回	レポート完成計画Ⅲ 研究発表会②
第15回	前期のゼミのまとめと夏季休暇中の課題について	第31回	本ゼミナールの総括
第16回	定期試験	第32回	定期試験

	ゼミナール名	ゼミナールⅡ（表現文化）		
	ゼミ担当者名	橋元 志保		
	科 目 分 類	専門科目群		
	開 講 年 次	3年次	開 講 期 間	通年
	開 講 時 限	水曜日 2 限	単 位 数	2 単位
	実 施 方 法	☒ 対面のみ ☐ 遠隔のみ ☐ 対面・遠隔併用		

ゼミのテーマ	日本やイギリスの文化・文学を学び、大学生にふさわしい教養を身につける。
ゼミの到達目標	このゼミナールの単位を良好な成績で修得した場合、次のような知識・能力を修得できます。 1. 世界遺産を中心に日本や海外の文化に触れ、その歴史や特色を説明することができる。 2. 日本やイギリスの文学に触れ、内容を味わい、文化的背景も含めて理解することができる。 3. 文化や文学をテーマにした論理的な文章を書き、発表することができる。
ゼミの概要	表現文化ゼミナールでは、文学や芸術、世界遺産等を中心に国内外の文化に触れ、大学生にふさわしい教養を深めることを目的とします。また、日本やイギリスの文学作品を中心に講読を行い、評論や論文を理解できるような読解力・思考力を涵養します。そして、文化や文学をテーマに論述・プレゼンテーションが行えるような表現力も身につけていきます。なお、将来の進路や採用試験・公務員試験に関するサポートも行っています。
授業時間外の学習	1. ゼミで取り上げる評論や小説を、指定された頁まで必ず読んでください。また、難解な漢字や語句の意味は必ず調べておきましょう（1時間程度）。 2. プレゼンテーションの練習を行いますので、発表日までに、指定されたテーマによるパワーポイントの作成、及び発表準備を行うこと（1～2時間程度）。 3. ゼミで紹介した文学作品やエッセイ、評論等を読むことを推奨します（1～2時間程度）。
履修条件	① 「文章の読み方」「小論文の書き方」「日本の文学」「福祉と文学」「旅と文学」「世界の中の日本文学」のいずれかの科目を履修して単位を修得しているか、今年度、上記科目のうち一つ以上を履修する意欲があること。 ② 前期の履修登録期間中（ゼミナールの1回目、2回目まで）に面談し、真面目にゼミに参加する意志が確認できた人。 ③ 大学行事等で、他のゼミ生と一緒に行動することも多いので、皆と仲良くできること。 ④ 担当教員から連絡があった場合は必ず応答し、学則は遵守すること。
テキスト	授業時に資料を配布します。また、特に後期はゼミの皆の意見を聞きながら、テキストを選んでいきます。
参考文献・資料	授業の中で随時、紹介していきます。
成績評価の方法	【主体的な学びの姿勢（25%）、課題の提出（25%）、定期試験（50%）】の総合評価とします。 1. 出席回数が規定に満たない場合及び授業料その他納入金等の全額を納めていない場合は、試験を受けることが出来ません。 2. 授業中の迷惑行為は厳禁です。そのような行為を繰り返し、注意しても改めない場合は、単位を認定できない場合があります。 ※出席回数が規定に満たなかった場合及び授業料その他納入金等の全額を納めていない場合は試験を受けることができません。
オフィスアワー	木曜日（13時～16時10分）※これ以外の時間は事前に予約してください。
成績評価基準	秀(100～90点)、優(89～80点)、良(79～70点)、可(69～60点)、不可(59点以下)

学 生 へ の メ ッ セ ー ジ	皆さんには夢がありますか。将来の進路をどのように考えていますか。実は、そのような質問をしたり、考えたりできることは、とても幸せなことなのです。この地球上には、そんなことを考えたこともない、ただ生きていくだけで精一杯の子どもや若者たちが数多く存在しています。視野を広く、そして心を豊かにするために、皆で国内外の文化・文学を学んでいきましょう。
----------------------	--

授業計画			
第1回	文化を学ぶということ	第17回	キャリア・プランニングについて③
第2回	様々な世界遺産を知ろう	第18回	卒業試験対策①
第3回	キャリア・プランニングについて①	第19回	文学を楽しむために
第4回	自己分析・業界研究を始めよう	第20回	小説を読むための技法
第5回	世界遺産と日本の歴史	第21回	卒業試験対策②
第6回	世界遺産と日本の文化	第22回	恋愛小説を読む
第7回	日本の文化と四季	第23回	推理小説を読む
第8回	日本の文化と遊び	第24回	卒業試験対策③
第9回	日本の近代と文化・文学	第25回	テーマ学修について②
第10回	テーマ学修について①	第26回	イギリスの歴史と文化
第11回	プレゼンテーションについて学ぼう	第27回	イギリスの文学を楽しむ
第12回	話す技術・敬語・マナーを磨こう	第28回	論文を読んでみよう
第13回	プレゼンテーションの実践	第29回	論述のポイントとは
第14回	キャリア・プランニングについて②	第30回	テーマ学修について③
第15回	レポート・論文の書き方	第31回	将来の進路について考える
第16回	定期試験	第32回	定期試験

	ゼミナール名	ゼミナールⅡ（日本経済のマクロ分析）		
	ゼミ担当者名	深澤泰郎		
	科目分類	専門科目群		
	開講年次	3年次	開講期間	通年
	開講時限	水曜日2限	単位数	2単位
	実施方法	◆対面のみ □遠隔のみ □対面・遠隔併用		

ゼミのテーマ	マクロ経済学的視点から、日本経済の問題点を探りその実態を明確にする。3年次は大きな問題点を個別に掘り下げる。
ゼミの到達目標	日本経済の主要な問題点である、公的社会保障問題、マイナス金利まで踏みこんだ金融政策の収束方法という金融政策問題の2点に絞って深く学びます。
ゼミの概要	3年次ということで、上記の2点について深く学ぶため輪読と意見発表の展開で進めます。2点についての理解を深めるとともに、自ら考える姿勢を自分のものとして下さい。他人の意見もよく聞いてお互いに討論をして下さい。また、この1年で自分の研究テーマを絞って下さい。経済学部ゼミナール大会または令和3年度「私立大学等即戦力育成支援事業」のどちらかで、研究発表を行ってもらいます。 受講者の理解度、進行状況等を考慮して、シラバスを変更する場合があります。
授業時間外の学習	テキストの内容について、最新の経済データを事前に準備すること。 日本経済新聞を購読すること（ゼミの最初に、その日の記事について質問します）
履修条件	マクロ経済学Ⅰ、マクロ経済学Ⅱ、生活経済学の単位を取得済みかまたは同時履修すること。
テキスト	「異次元緩和の終焉」野口悠紀雄 日本経済出版社（予定）
参考文献・資料	「野口悠紀雄の経済データ分析講座」ダイヤモンド社 「マイナス金利」徳勝玲子 東洋経済新報社 日本経済と財政危機の本質シリーズ7「社会保障の構造問題－健康保険と医療保険の実態」深澤泰郎、 同シリーズ11「高齢者ポピュリズムに侵された国、日本！」深澤泰郎、 その他についてはゼミの中でお話しします。
成績評価の方法	秀(100～90点)、優(89～80点)、良(79～70点)、可(69～60点)、不可(59点以下)
オフィスアワー	火曜日 13:00～14:30 14:40～16:10 金曜日 13:00～14:30 14:40～16:10
成績評価基準	輪読と意見発表と討論（40%）、まとめのレポート、年間レポート（60%）、
学生へのメッセージ	日本の将来はあまり明るくありません。その解決策を探るには、まず日本経済の実態を把握して、将来予想を行う必要があります。そのうえで自分で考える姿勢を習得できれば、就職の際にも、さらに就職後の人生に、「有効なツール」となります。また卒論は日本経済に関するテーマであれば、自由としたいと思います。教員と相談してください。 なお、ゼミナール時にパソコンを使用して、経済データの分析、グラフ作成を行う場合があります。パソコンを持っていない人は、事後でもいいので、相談して下さい。

授業計画			
第1回	ガイダンス 教科書紹介 1年間の目標設定	第17回	効果なしと分かっていた量的緩和をなぜ繰り返したのか？
第2回	日本の税制と社会保障	第18回	弊害の大きいマイナス金利と長期金利操作
第3回	消費税の構造と課題	第19回	物価上昇率目標は達成できず
第4回	個人所得課税への期待と限界	第20回	消費を増加させず、格差が拡大（1） 賃金
第5回	年金財政 世代交代の視点と年金財政改革	第21回	消費を増加させず、格差が拡大（2） 円安
第6回	年金制度	第22回	世界は金融緩和政策からの脱却を目指したが……
第7回	健康保険財政との構造と高齢者医療制度	第23回	出口に立ちふさがる深刻な障害（1） 日銀の状況
第8回	国民皆保険の現状と改革の指針	第24回	出口に立ちふさがる深刻な障害（2） マクロ経済
第9回	給付付き税額控除の可能性と課題	第25回	ひそかに進む金融・経済の浸食
第10回	2019年度の公的年金の財政検証について	第26回	ジャパンプレミアムが映す日本経済
第11回	社会保険の構造問題 健康保険と医療財政の実態	第27回	第17回～第25回のまとめとレポート作成
第12回	高齢者ポピュリズムに侵された国、日本！	第28回	レポート作成
第13回	第2回～第12回のまとめとレポート作成	第29回	レポート作成発表と討論
第14回	レポート作成	第30回	年間レポート作成
第15回	レポート発表と討論	第31回	年間レポート作成
第16回	定期試験	第32回	定期試験

	ゼミナール名	ゼミナールⅡ（労働経済・社会保障）		
	ゼミ担当者名	藤本 剛		
	科目分類	専門科目群		
	開講年次	3年次	開講期間	通年
	開講時限	水曜日2限	単位数	2単位
	実施方法	☒ 対面のみ ☐ 遠隔のみ ☐ 対面・遠隔併用		

ゼミのテーマ	わが国の労働経済・社会保障についての考察。
ゼミの到達目標	わが国の労働経済・社会保障について知識を身につけ、テーマを決めて共同研究し、発表する。
ゼミの概要	毎日の新聞から、労働経済・社会保障に関する記事を探し、共に読んで考え議論する。その積み重ねを共同研究に結び付け、より深く考察し、研究発表する。
授業時間外の学習	図書館などを使って、新聞をよく読むこと。これをベースに、ゼミの時間で意見を交わし合い、理解がより深められるよう努めよう。
履修条件	意欲的に取り組む気持ちが必要である。ゼミナールのメンバー同士での話し合いを積極的に行って、その経験を積み重ねていくことが大切である。また、木曜日2時限目の社会保障論は、必ず受講することが条件となる。
テキスト	特に定めないが、社会保障論の授業で使ったプリントや資料を活用することがある。
参考文献・資料	『厚生労働白書』各年版 『労働経済白書』各年版 公務員Vテキスト『社会政策』第12版
成績評価の方法	出席状況、ゼミ活動への積極的参加姿勢、提出レポート等から評価する。 ※出席回数が規定に満たなかった場合及び授業料その他納入金等の全額を納めていない場合は試験を受けることができません。
オフィスアワー	月曜日の12時～13時 及び 木曜日の17時～18時
成績評価基準	秀(100～90点)、優(89～80点)、良(79～70点)、可(69～60点)、不可(59点以下)
学生へのメッセージ	出席を重視する。遅刻しないよう努めて欲しい。積極的な活動が出来るよう、お互いに刺激し合い、高め合っていこう。

授業計画			
第1回	ゼミナール活動方針について。説明と話し合い。	第17回	ゼミ大会発表に向けてⅠ
第2回	地域の社会保障・年金保険	第18回	ゼミ大会発表に向けてⅡ
第3回	地域の社会保障・医療保険	第19回	ゼミ大会発表まとめ・スライド作成Ⅰ
第4回	地域の労働経済・賃金	第20回	ゼミ大会発表まとめ・スライド作成Ⅱ
第5回	地域の労働経済・労使関係	第21回	ゼミナール大会発表練習Ⅰ
第6回	地域をテーマにグループ研究の検討	第22回	ゼミナール大会発表練習Ⅱ
第7回	グループ研究Ⅰ	第23回	ゼミナール大会・予選
第8回	グループ研究Ⅱ	第24回	ゼミナール大会・決勝
第9回	グループ研究Ⅲ	第25回	ゼミナール大会の反省・感想
第10回	グループ研究Ⅳ	第26回	卒業試験対策Ⅱ
第11回	大学祭準備Ⅰ	第27回	卒業試験の反省
第12回	大学祭準備Ⅱ	第28回	就職活動に向けてⅠ
第13回	大学祭準備Ⅲ	第29回	就職活動に向けてⅡ
第14回	グループ研究Ⅴ	第30回	就職活動に向けてⅢ
第15回	卒業試験対策Ⅰ	第31回	ゼミナールⅡを振り返って
第16回	定期試験	第32回	定期試験

	ゼミナール名	ゼミナールⅡ（グローバル英語）		
	ゼミ担当者名	三浦 薫		
	科 目 分 類	専門科目群		
	開 講 年 次	3年次	開 講 期 間	通年
	開 講 時 限	水曜日 2 限	単 位 数	2 単位
	実 施 方 法	☒ 対面のみ ☐ 遠隔のみ ☐ 対面・遠隔併用		

ゼミのテーマ	国際交流の第一歩は、日本と海外の文化の違いを知ることですが、実は自国の日本文化を知るところから始まります。日本文化を理解し、国内外に発信できる知識を身に着けましょう
ゼミの到達目標	少し時代遅れとなった感のある「クールジャパン」ですが、今の日本のどこが cool でまたどこが not cool なのかを考え、日本文化の再発見し、今後の日本を考えること、また日本を外国人に紹介できることを目標にします。
ゼミの概要	テーマに関することを調べ、読み、考えをまとめ、発表し、ゼミ内で話し合ってもらいます。発信力を学びます。
授業時間外の学習	沢山本を読みましょう。海外での日本に関する紹介（英語）文献、記事などを読んでみましょう。
履修条件	
テキスト	ゼミナールで配布します
参考文献・資料	ゼミナールで指示します。
成績評価の方法	受講態度40% プレゼンテーション40% 試験20% ※出席回数が規定に満たなかった場合及び授業料その他納入金等の全額を納めていない場合は試験を受けることができません。
オフィスアワー	水曜日 13時から14時30分 木曜日 9時から10時30分
成績評価基準	秀(100～90点)、優(89～80点)、良(79～70点)、可(69～60点)、不可(59点以下)
学生へのメッセージ	日本文化への理解や知識が国際交流のカギになります。 英語は授業で学びましょう。ゼミでは、英語を通して、世界を、日本を、考えます。

授業計画			
第1回	オリエンテーション 一年の計画	第17回	後期オリエンテーション
第2回	外国人むけ日本観光ガイドブックから見えるもの	第18回	⑥日本の伝統文化
第3回	① 日本人のコミュニケーションについて	第19回	⑦日本人のライフスタイル
第4回	② 日本文化について	第20回	⑧日本人らしさ
第5回	③ 日本食について	第21回	⑨日本の暮らし
第6回	④ 日本での生活について	第22回	⑩日本の学校、教育
大7回	まとめのプレゼンテーション	第23回	まとめのプレゼンテーション
第8回	「COOL JAPAN」NHK 番組から見えるもの	第24回	日本を外国人に紹介してみよう
第9回	① 日本のポップカルチャー	第25回	① 日本の伝統を紹介
第10回	② 日本のハイテク技術	第26回	② 日本の文化を紹介
第11回	② 日本のサービス業	第27回	③ 日本の食を紹介
第12回	④ 日本の「食」	第28回	④ 日本の暮らしを紹介
第13回	⑤ 日本のファッション	第29回	プレゼンテーション
第14回	まとめのプレゼンテーション	第30回	後期のまとめ
第15回	前期のまとめ	第31回	一年のまとめ
第16回	定期試験	第32回	定期試験

	ゼミナール名	ゼミナールⅡ（環境学）		
	ゼミ担当者名	村中 孝司（むらなか たかし）		
	科 目 分 類	専門科目群		
	開 講 年 次	3年次	開 講 期 間	通年
	開 講 時 限	水曜日 2 限	単 位 数	2 単位
	実 施 方 法	☒ 対面のみ ☐ 遠隔のみ ☐ 対面・遠隔併用		

ゼミのテーマ	1. 食料・農林漁業の問題を解決に導く探究を通して、環境と経済の関係を読み解く。 2. 自然風景と地域資源の魅力発掘を客観的手法により方法を探る。 3. 研究の成果を発表し、口頭や文章で表現する方法を学ぶ。 4. 自分自身が大学生4年間でやり遂げた成果を1つつくる。
ゼミの到達目標	1. 食料と農林漁業に関する問題、自然風景の評価手法、生物多様性に関する問題など、多様な視点から地域課題に関するテーマを調査し、環境や地域に対する理解を深めます。 2. メンバーの発表をよく聴き、質問や意見を述べる力を身につけます。 3. 学術書や論文を読み、文章を深く理解し、自分で表現する力を身につけます。 4. 研究発表を行い、大学生としての学修の成果を形づくりします。
ゼミの概要	環境学ゼミナールは、持続可能な社会の構築を科学的に考えることを目標にしています。自然や社会における問題を発見し、解決に導く勉強を行います。また、フィールドワークを併せて実施します。自然界や社会に対する皆さんの観察眼が向上し、問題を見つけ出す力を養成します。 ゼミの内容は、①輪読、②研究の2つです。 ① 輪読：環境、自然、食文化などに関する学術書を読み、知識と考え方を身につけます。 ② 研究：自主研究テーマを各自（または2人以上のチーム）で決め、年度末までに自主研究レポートを作成または、ゼミナール大会で発表します。これは、将来、卒業論文として完成させるための準備として位置づけられます。3年生のゼミは、学問の入り口から自身の関心事を鳥瞰し、どのようなテーマに取り組むのかをよく考える期間となります。
授業時間外の学習	図書館や自宅では本や論文を読み、知識や文章の書き方、論理的な説明の方法を学んでください。ゼミナール内外の仲間たちとも、よく議論してください。
履修条件	次の①、②の条件をともに満たす者とします。 ① 研究活動に熱心に取り組むことができる者。 ② 環境学ゼミナールⅠを履修済みの者。環境学ゼミナールⅠ未履修の場合は、体験ゼミに少なくとも1回出席し、教員からの履修の承諾を得ること。なお、自然科学概論Ⅰ・Ⅱ、基礎数学Ⅰ・Ⅱ、統計学、総合科目Ⅰ・Ⅱ（村中クラス）、地球環境学、地域フィールドワーク、経済データ解析論の中から4単位以上履修済みであることが望ましい。
テキスト	ゼミナール中にみなさんと相談して決定します。なお、『社会の中の科学』、『総合人類学としてのヒト学』、『環境問題のとりえ方と解決方法』、『環境と社会』などから1冊を選定予定。
参考文献・資料	ゼミナール中に紹介します。
成績評価の方法	① 輪読（50%）、自主研究（発表と準備などに対して）（50%） ② ①に対してそれぞれ、発表（50%）、他者への質問・コメント・意見・議論等（50%） 出席回数が規定に満たなかった場合及び授業料その他納入金等の全額を納めていない場合は試験を受けることができません。
オフィスアワー	火曜日 14:40～16:10、水曜日 14:40～16:10
成績評価基準	秀(100～90点)、優(89～80点)、良(79～70点)、可(69～60点)、不可(59点以下)
学 生 へ の メ ッ セ ー ジ	大学は学問に取り組むところです。学問に対して真剣に取り組むのならば、どのようなテーマでもよいと思います。自信を持って他者に自慢できる研究を行ってほしいと願っています。研究の成果は、学内の研究発表会などで発表することを推奨しています。この1年間で自身（またはチーム）の研究を進展させ、大学で「謎を解き明かした、社会に提案した！」と自信を持っているものを1つでもつくりませんか。また、ゼミナール研修会（夏期）は、皆さんの希望を聴き、

	宿泊で県外の観光地へ行きます。これまで、東京、札幌、福岡、京都・奈良、仙台、盛岡などに 行きました。学生相互の親睦は、研究活動によって養われることをモットーとしています。
--	--

授業計画（環境学ゼミナールⅡ）			
第1回	ガイダンス 体験入室①	第17回	研究⑪ 環境負荷の定量化 ライフサイクルアセスメント 輪読⑥
第2回	ガイダンス 体験入室②	第18回	研究⑫ 生態系サービス 調整サービス、供給サービス 文化的サービス、基盤サービス
第3回	研究① 学術研究とは 学問的意義、社会的意義 研究のプロセス	第19回	研究⑬ 生物多様性 生物多様性保全の意義 輪読⑦
第4回	研究② 学術論文、先行研究 文献の探し方 輪読①	第20回	研究⑭ フィールドワーク 問題の発見と仮説の発見
第5回	研究③ 文献から学ぶ 知識を得る、論文の構造と表現を読み解く 輪読②	第21回	自主研究③ 研究テーマの目的と背景の構築
第6回	研究④ ワークショップ 討論の方法、アイスブレイク ディベート	第22回	自主研究④ 結論（意見や主張）、仮説の設定
第7回	研究⑤ 統計データの収集と分析 統計データを活用する 輪読③	第23回	自主研究⑤ 仮説検証に必要なデータの収集
第8回	研究⑥ アンケート調査 アンケート調査の方法 輪読④	第24回	自主研究⑥ 先行研究の調査と分析
第9回	研究⑦ 可視化 概念に定義を与える 量的データの収集方法	第25回	自主研究⑦ 研究発表練習
第10回	研究⑧ フィールドワーク 観察の記録、事実を捉えること	第26回	自主研究⑧ 発表の論理構成チェック
第11回	研究⑦ 質的データの処理 質的データと量的データ 輪読⑤	第27回	自主研究⑨ 研究成果の発表
第12回	研究⑧ フィールドワーク 農地や森林から得られる生態系サービスの評価	第28回	自主研究⑩ 研究成果の発表
第13回	研究⑨ フィールドワーク 自然、文化遺産の価値評価	第29回	自主研究⑪ 発表に対する反省
第14回	研究⑩ フィールドワーク 自然風景地の魅力評価	第30回	研究⑪ 書く、まとめる 論文執筆手順 輪読⑧
第15回	自主研究① 研究準備	第31回	研究⑫ 書く、まとめる 論文の構造 輪読⑨
第16回	自主研究② 研究のテーマ考案	第32回	定期試験